

今週の為替相場見通し(2019年7月22日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		107.21 ~ 108.37	107.75	106.80 ~ 108.60
ユーロ	(ドル)		1.1200 ~ 1.1284	1.1220	1.1100 ~ 1.1300
(1ユーロ=)	(円)		120.78 ~ 121.84	120.89	119.50 ~ 121.50
英ポンド	(ドル)		1.2382 ~ 1.2578	1.2506	1.2450 ~ 1.2600
(1英ポンド=)	(円)	*	133.85 ~ 135.85	134.65	134.00 ~ 136.00
豪ドル	(ドル)		0.6997 ~ 0.7082	0.7043	0.7000 ~ 0.7150
(1豪ドル=)	(円)	*	75.46 ~ 76.15	75.84	74.00 ~ 77.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 上野 智久

(1)今週の予想レンジ: 106.80 ~ 108.60 円

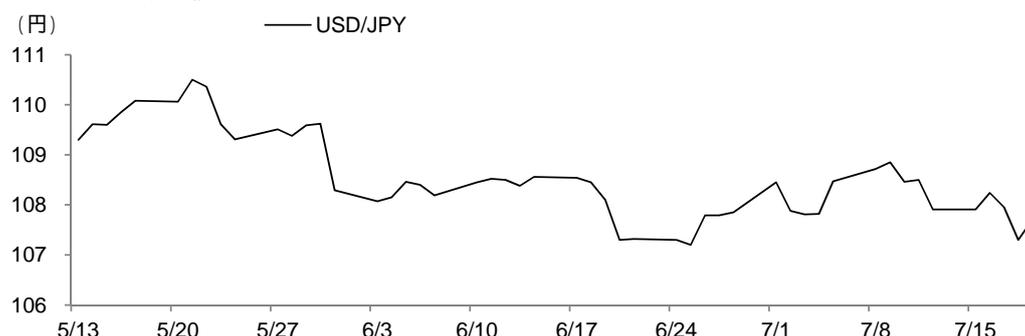
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半にかけて下落する展開。週初15日、107円台後半でオープンしたドル/円は、東京市場休場の中、中国4~6月期GDPや6月鉱工業生産の良好な結果を受けて108円台前半まで上昇。しかし、その後は軟調な株価の値動きに107円台後半まで押し戻される展開。16日は、良好な米6月小売売上高の結果を受けて、再び108円台前半まで上昇。その後、米金利が上昇する動きに一時、週高値となる108.37円まで値を上げた。17日にかけてドル買い優勢地合いが継続するも特段材料がない中、序盤は108円台前半での小動き。その後、6月住宅着工件数や建設許可件数が共に市場予想を下回ったことを受けて108円台近辺まで下落する展開。18日も前日の流れを引き継ぎドル売り優勢の中、日経平均株価の下落も相俟って、ドル/円は107円台後半まで下落。その後、クラリダFRB副議長やウィリアムズNY連銀総裁のハト派的な発言をきっかけに米金利が低下すると、ドル/円は一時週安値となる107.21円まで値を下げたが、その後火消し発言を行う中で、19日にかけてドル/円は反発し、107円台半ばまで戻す。米紙が「FED要人は今月末の会合は25bpの利下げのサインを送っている」と報じたことから、50bp利下げ期待が後退し、107.97円まで戻した。その後はやや値を戻し、107円台後半で越週している。

今週のドル/円相場は基本的には108円近辺での方向感の乏しい展開を予想する。先週はFED要人が次回FOMCでの利下げを容認するような発言を行う中で、ドル/円は調整局面を迎えた。特に18日のクラリダFRB副議長やウィリアムズNY連銀総裁を受けて、市場では一時7月のFOMCでの50bpの利下げを急速に織り込む局面も確認され、ドル売りも強まる中でドル/円も週安値を更新した。しかし、市場の反応を受けて、直後に同発言の火消しを実施。市場の過度な期待に対する修正を行っているとも取れ、逆説的に言えばFED要人がFOMCでの金融政策について概ね落としどころを見せたとも受け止められる。今週は7/30-31日のFOMCのブラックアウト期間に入り、FED要人の発言等は確認できない。FOMCを控えて、比較的穏やかな値動きになるのではないか。また今週はECBが行われるが、ドル/円への影響は限定的か。

(3)先週までの相場の推移

先週(7/15~7/19)の値動き: 安値 107.21 円 高値 108.37 円 終値 107.75 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1100 ~ 1.1300 119.50 ~ 121.50 円

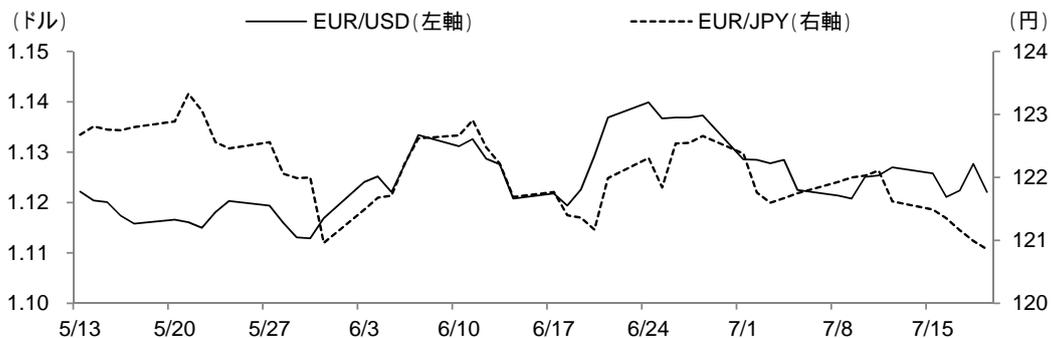
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは下落する展開となった。週初15日、1.1280付近で取引を開始したユーロ/ドルは米7月NY連銀製造業景気指数が予想比良好したことで下落し、1.1258まで軟調推移。16日、独7月ZEW調査現状指数・景気期待指数が共に予想を下回ったことからユーロ売りが強まり、米6月小売売上高が堅調な値だったことも相俟って1.1212まで続落。17日、ユーロ圏6月消費者物価指数(CPI)(確定値)が上方修正されたことから1.122まで戻した。トリア・イタリア財務相の「EUの財政ルールは変更されるべき」との発言には殆ど反応は見られなかったが、その後もドル売りが継続し、1.1226まで戻す。18日は「ECBがインフレ目標の改定を検討」とのヘッドラインを受け、1.1205まで下落したものの、クラリダFRB副議長の発言を受け、ドル売りが持ち込まれ1.1280まで急上昇。週末は翌週木曜のECB政策理事会を控える中、弱めの内容になるとの見方が強まったことや、米国で早期利下げの必要性を強調したウィリアムズNY連銀総裁の発言等が受けてドル売りが進行し、1.1220で越週した。15日、121.57円付近で取引を開始したユーロ/円はアジア時間に一時121.84円まで上昇するも121.47円に反落。16日は121円台半ばを中心とした狭いレンジ推移後、121.10円まで下落。ドル円が108円台をしっかりと回復すると、ユーロ/円は121.43円まで戻し横這い推移。18日には再びドル円が107円台に下落すると共にユーロ円も上値重く推移し、一時120.78円まで下落し、同水準で越週した。

今週のユーロ相場は対ドル・対円共に下落しよう。25日(木)のECB政策理事会への注目が集まっている。ドラギECB総裁、理事会メンバーは「見通しが悪化すれば」行動する用意があることを明確に示している。6月理事会議事要旨が示唆したように、ECBは「利用可能なすべての手段を調整し、金融政策を緩和する用意がある」とし、具体的に据え置き期間の延長、純資産購入、利下げに言及している。今後2か月で、インフレ率が上昇しない、あるいは経済活動に改善の兆し見られない場合、ECBが夏季休会を挟んだ9月の理事会で金融政策を緩和する十分な根拠になると考えている。今週の理事会では、足許の軟調な景気動向を背景に政策金利のフォワード・ガイダンスに緩和バイアスが示唆されることが予想され、ユーロ相場は上値が重い展開となる。今週は25日(木)にECB理事会が開催される他、重要指標は23日(火)にユーロ圏7月消費者信頼感、24日(水)にユーロ圏7月マークイット製造業PMI、25日(木)に独7月IFO企業景況感指数の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(7/15~7/19)の値動き: (対ドル) 安値 1.1200 高値 1.1284 終値 1.1220
(対円) 安値 120.78 高値 121.84 終値 120.89



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

為替営業第二チーム 原田 和忠

(1) 今週の予想レンジ: 0.7000 ~ 0.7150 74.00 ~ 77.00 円

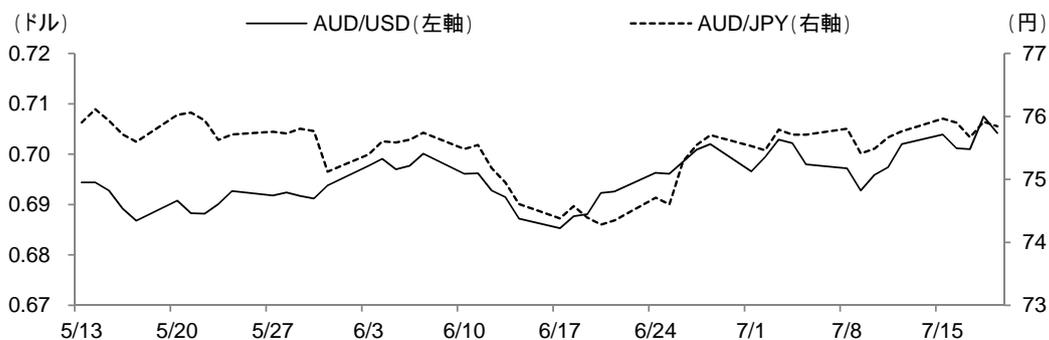
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは堅調に推移。週初15日は、0.70台前半でじり高となるスタート。アジア時間は手がかりにかけられる中で、豪ドルは堅調な推移。中国GDPは前回から鈍化もほぼ予想通りとなったことから反応は限定的となった。16日は、0.70台前半へじり安となる展開。アジア時間は動意なく、6月RBA議事録の内容は、労働市場を注視し必要があれば金融政策に調整を行うとの内容で大きなサプライズはなく、為替市場の反応は薄かった。海外時間に入り、ポンペオ米 국무長官から「イランとは条件が合えば協議に応じる構え」との話が出たことを受けて原油相場が急落するとコモディティ売り、ドル買いが強まり、豪ドルは0.7010レベルまで下落した。17日は、0.70台前半で揉みあう展開となった。特段の材料なく、翌日に豪失業率が控えていることもあり、全般的に様子見で豪ドルも狭いレンジ内での推移となった。18日は、0.70台後半に上昇する展開。注目されていた6月豪失業率は、5.2%と前回と変わらずほぼ予想通りの内容と大きなサプライズはなかった。海外時間で、「米海軍がイランの無人ドローンを撃墜」とのヘッドラインやFed高官の利下げを支持するような発言が伝わると米金利は低下、豪ドルは0.7070台まで上昇する展開となった。19日は、反落し0.704台で越週した。

今週の豪ドル相場は0.71台に向けて上昇を予想。先々週の米パウエルFRB議長の議会証言は利下げを示唆する内容をはじめ、先週末にはFed高官による利下げ支持の発言が相次ぎ、今月末のFOMCでの50bp利下げを織り込むまでに金利先物は低下した。すでに豪州においては、オーストラリア準備銀行(RBA)が6月及び7月に利下げを行っており、当面は政策金利を据え置く見通しであることから、月末のFOMCでの利下げ観測が高まるにつれ、豪ドル相場は上昇する展開となろう。18日(木)に発表された失業率は前回比変わらずの5.2%となった。一方、RBAが7月の理事会声明の中でふれた不完全雇用率は5月の8.6%から8.2%へ低下。数ヶ月間上昇していた不完全雇用率が低下に転じたことで8月の政策金利は据え置きの可能性が高まったためだ。今週の予定は、24日にPMIの発表があるほか、25日にロウRBA総裁による講演が予定されている。金利先物市場は、RBAが11月に再び利下げを実施することを織り込みつつある中、ロウ総裁による発言は注目される。いずれにしても米金利に左右される相場が継続すると見られ、今週の豪ドル相場は上昇をメインシナリオと考える。

(3) 先週までの相場の推移

先週(7/15~7/19)の値動き: (対ドル) 安値 0.6997 高値 0.7082 終値 0.7043
(対円) 安値 75.46 高値 76.15 終値 75.84



(資料)ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。